

ふじみサラダボール子育て情報



「依存から自立」
平成30年7月11日号
板橋富士見幼稚園



温かなよりどころからの巣立ち

子どもは、家庭という温かなよりどころに安心感や安定感を感じ、僅かな勇気を頼りに自立していきます。子どもの自立はとてもデリケートで、親への依存度が高く、ちょっとした言動や行動が、その子の資質に影響を与えてしまいます。

さらにその自立への道は、どの子どもが発達していく過程は同じとしても、速度は一人ひとり異なるもので、バラツキがあります。見かけ上は幼く見えたり、快活に見えたりしますが、幼児期の終わりまでは、いきつ抜かれつしながら互いに競い合い、時には喧嘩やいざこざを体験し、他者に憧れを持ちながら成長していきます。



急激に発達を遂げていく幼児期は、家庭だけの環境では限りがあり、なるべく同年齢の子ども達と関わる機会を設けることが大切と言われます。

家庭の中で、自分のことだけを最優先して遊んでいた子ども、大勢の中で過ごすことで、他者の思いとの違いに気づいたり、自分の思いを押し通そうと譲りきれず葛藤したり、いざこざになったり、時には喧嘩を経験しながら育ち合っています。

集団に参加する子ども達は、遊びを通して自己性（自分づくり）を学び始めます。家庭から集団に参加する初めての経験は専門的には、「所有の意識」といいますが、自分と他者との違いに気付くことが始まりです。

そのため、今までは、家にある全てが自分の物という意識から、園に来て初めて他の人の物であることに気づき「かして」「いれて」という挨拶言葉から覚えます。

自分に名前があることを知り、集団では、その居場所も決められていることで、自分と他者の違いが分かるようになっていきます。この間の道のりは、簡単で平坦ではありません、押し合いへし合い、時には喧嘩をしたりしながら、相手の気持ちを感じ取り仲良くなっていきます。

そして4歳を迎える頃には、自分と他者がはっきり区別できるようになり、譲ったり譲られたり、助けて貰ったりしなから、育っていきます。

集団生活は、いろいろな出来事に出会う楽しい体験の時期です。お母様方も、一緒に楽しめるように心がけたいものです。